小学校英語教育センター Newsletter
第25号　2025年12月 発行

2025年度　小学校英語教育センターシンポジウム報告

2025年11月1日（土）午後，鳴門教育大学小学校英語教育センターシンポジウムが開催されました。今回は，学習者用デジタル教科書を含むデジタル学習基盤の活用による授業づくりが求められる背景をふまえ，「小学校外国語教育における児童の新しい学びの姿を探る～デジタル学習基盤を活用して～」というテーマのもと，研究報告・実践報告，基調講演，そしてフロアとの質疑応答という流れで，シンポジウムを行いました。

まず，公益財団法人教科書研究センターからの委託を受け，鳴門教育大学小学校英語教育センターが進めてきた研究「小学校外国語教育におけるデジタル教科書を活用した授業づくりに関する研究―その実態把握と分析に基づいて―」について報告をさせていただきました。デジタル教科書の活用状況に関するアンケートの結果，デジタル教科書の活用を通して促された児童の主体的な学びの具体的な事例をもとに，教師が児童に学びを委ねる必要性についてお話ししました。

続いて，宮崎市立西池小学校指導教諭の岩切宏樹先生より，「小学校外国語教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」と題し，先駆的な実践をご報告いただきました。特に，「主体的・対話的で深い学び」を実現するために，３つの資質・能力を見つめ直し，「言語活動」のあり方を見つめ直す必要性とともに，言語活動における中間指導の充実，目的に応じた教科書教材の取捨選択，学び方の指導など，その具体的な指導のあり方についてお話しされました。

そして，基調講演では，関西外国語大学教授（本学客員教授）の直山木綿子先生より「デジタル学習基盤がもたらしていること―要するに，小学校外国語教育で何が大切なのか―」と題し，お話しいただきました。ご講演のなかで，直山先生は，２つの小学校外国語の授業事例を参考に，「主体的・対話的で深い学び」が実現されている授業，また，その中での教育用端末やデジタル教科書等の活用のあり方について問われました。そして，学習指導要領の改訂の方向性をふまえながら「見方・考え方」の意味を再確認し，デジタル学習基盤のもとで，教育用端末やデジタル教科書を使用することが目的なのではなく，「見方・考え方」が働いているかどうかという視点からそれらを手段として活用し，「主体的・対話的で深い学び」を実現することが重要であることを説かれました。

【直山木綿子先生】

【質疑応答の様子】

シンポジウムの最後は，直山先生をコーディネーターに，登壇者の先生方と，参加者の方々との質疑応答の時間を設けました。限られた時間ではありましたが，多くのご質問をいただき，活発なやり取りが行われました。具体的には，小学校外国語における文法の扱いや言語活動のあり方，主体性の育成をうながすべく児童に学びを委ねることの意味やその具体的なあり方などについて質問があり，ご登壇の先生方から，学習指導要領の理念を再確認する必要性や，主体性を育成する上での教師の役割の重要性など，実践事例をふまえ，分かりやすく回答をいただきました。

総じて，今回のシンポジウムは，学習者用デジタル教科書を含むデジタル学習基盤を活用すればおのずと児童の「主体的・対話的で深い学び」が実現するというものではなく，その実現には，デジタル学習基盤を駆使し，外国語教育の「見方・考え方」を促すことができる教師の役割がますます問われていることを再確認・共有する場となったのではないかと考えます。　今回のシンポジウムは，会場およびオンラインにて175名の皆さまにご参加をいただきました。この場をお借りし，改めてお礼申し上げます。そして最後に，本シンポジウムに協賛いただいた公益財団法人教科書研究センター様を始め，ご後援をいただいた関係機関様に，深く感謝の意を表します。ありがとうございました。

（小学校英語教育センター所長・教授 山森 直人）

【発行】鳴門教育大学小学校英語教育センター　Tel 088 - 687 - 6041　Fax 088 - 687 - 6148
〒772-8502徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748番地　E-mail:celees@naruto-u.ac.jp

講師派遣事業

本センターの講師派遣事業では、各教育委員会や学校、地域の皆様からのご依頼に基づき、小学校英語教育および小中連携に関する研修等を実施しています。研修内容についても、「講話」「ワークショップ」「研究授業における指導助言」など、さまざまなニーズに対応できるよう努めています。本年度も、これまでに30件近く、本制度をご活用いただいています。

令和7年10月7日（火）には、高知市教育委員会の「英語教育強化推進事業」の指定校として外国語教育に取り組んでおられる高知市立神田小学校にお招きいただきました。神田小学校では、「英語を使って自ら考え、伝え合うことができる児童の育成～児童が主体的にコミュニケーションを図る授業づくりを通して～」を目標に、日々実践を積み重ねておられます。

当日は、まず授業を参観させていただきました。特別支援学級を含む１年生から６年生まで、すべての学級において、英語活動や外国語活動・外国語科の授業を公開していただきました。その中で、特に心に残ったことが二点あります。

一点目は、どの教室にも見られた子どもたちの「笑顔」です。先生方と児童との間には確かで温かい信頼関係が築かれており、「間違えても大丈夫」という安心感が、教室全体を包み込んでいるように感じられました。二点目は、担任の先生方それぞれの強みを生かした授業の魅力です。学年間では共通の指導案をベースにしながらも、学級の実態に応じて、担任の先生方それぞれの個性や工夫が随所に見られる授業が展開されていました。改めて、小学校の先生方の高い授業力を実感する貴重な時間となりました。

授業後の研修会では、学習指導要領改訂の方向性について共有するとともに、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを大切にした言語活動の重要性」「動機づけの大切さ」「使いながら学ぶことの意義」などについてお話ししました。先生方からは、「話せないことは決してネガティブな要素ではなく、そこから気付きが生まれるという点に深く納得した」「『使いながら学ぶ、学びながら使う』中で、子どもたち自身がギャップを埋めながら力を付けていけることを体験的に理解できた。今後は他教科の授業にも生かしていきたい」などの感想をいただきました。終始熱心にご参加くださった先生方に心より感謝申し上げます。

今後も本センターは、先生方と連携しながら、児童の笑顔があふれる授業づくりに貢献してまいりたいと思います。

（特命准教授 佐藤 美智子）

オーダーメイド型　学校支援事業

本センターは、外国語教育の実践研究に取り組む小学校の実践をサポートするため、「オーダーメイド型　学校支援事業」を行っています。令和６・７年度は、徳島県小学校教育研究会　外国語教育研究大会の「コミュニケーションを図る素地及び基礎となる資質・能力を育む小学校外国語教育」にもとづき、「～児童自らが目的意識・相手意識をもち、主体的に関わり合う言語活動を通して～」をテーマに研究を進める三好郡東みよし町立足代小学校の実践研究を、「授業づくり」や「言語活動の充実」及び「評価」、そしてICTの効果的な活用の視点として「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実推進について、様々な形で協力・支援させて頂いています。

【４年生の授業の様子】

【５年生の授業の様子】

令和７年11月21日（金）、当校にて、文部科学省初等中等教育局教科調査官の早川優子先生をお招きし、第６回 徳島県小学校外国語教育研究大会が、対面とオンラインのハイブリッド型で開催されました。中学年は「What do you want?～家族や友だち、先生に感謝や応援の気持ちが伝わるオリジナルピザを作ろう～」、高学年は「Welcome to Japan!～DU Preez先生に、日本各地のよさを伝えよう～」と題した授業を公開してくださいました。中・高学年の分科会での授業研究会では、学校や児童の実態を踏まえての言語活動を通した授業づくりや、単元ゴールの設定、中間指導などの具体的な方法等について、協議されました。全体会では、足代小学校より、２年間の研究発表では、子どもたちの「伝えたい」という思いと、「そのために何をすべきか」という明確な意識づけを通して、まさに主体的・対話的で深い学びにつながるお取組をお示しいただきました。その後、早川先生によるご講評やご講演と続き、小学校外国語の目指すべき方向性を、全ての参加者で共有する時間となると共に、盛況の内に終了しました。

本センターは、今後も一層地域の皆様との連携を深め、小学校外国語教育をさらに推進するお手伝いができればと考えております。

（コーディネーター 庄司 晶代）

【 小学校英語教育センターHP　https://www.naruto-u.ac.jp/center/celees/ 】